

2 サタデーセミナー

2.1 身近な衣類をとおして環境問題を探ろう（家庭分野）

(1) 研究開発の概要

NPO 法人日本ファイバーリサイクル推進協会理事長の木田豊先生に「身近な衣類をとおして環境問題を探ろう」と題して、アパレル・リサイクルの現状についてご講義して頂いた。

(2) 研究開発の経緯

本校では学校家庭クラブの奉仕活動として、エコキャップ回収運動を実施している。そこで、このようなエコ活動が循環型社会づくりの視点から、どのようにリサイクルされ、どのように環境に関わっているのかなど繊維リサイクルの現状を知ることにより環境問題を考えさせる機会とした。

(3) 仮説（ねらい、目標）

身近な衣類を通してアパレル・リサイクルの現状を知ることにより、環境問題に対して興味・関心を高めることができ、自分たちに何が出来るかを考え衣生活について見直す機会とする。

(4) 研究の方法および内容

ア 対象生徒 1、2 学年希望者58名

イ 実施日時 平成24年12月15日（土）11時10分～12時40分

ウ 実施場所 本校 視聴覚室

エ 講師 日本ファイバーリサイクル推進協会 理事長
ファッションビジネス学会アパレルリサイクル研究部会長
杉野服飾大学講師 木田 豊 先生

オ 実施内容

(ア) アパレル・リサイクルの現状

- ・衣料品のリユース、リサイクル率は13%
（平成18年度繊維製品リサイクルの現状調査報告書）
- ・不要衣料品は可燃ゴミか？

(イ) 繊維特にアパレルリサイクルについての誤解

- ・リサイクルが出来ている、量的に少ない、私・我が社・我が業界の責任ではないという考えがアパレルリサイクルの障害
- ・ペットボトルのリサイクルは、折角集めてもリサイクル業者で対応しきれない。猛暑等で大量消費されると、数の多さから再生品の価格が下落してしまう。

(ウ) リサイクル実施の困難性

- ・リサイクルされた商品の需要低下 ①リユース（古着）②反毛 ③ウエス
- ・輸入品のシェアが高い。
- ・衣服は感性商品の為リサイクル配慮設計商品が遅れる。

(エ) アパレル産業の取り組み姿勢

- ・リサイクル配慮設計商品を表す「エコメイト」マークをアパレル産業としての回収システムを策定した。
- ・グローバル・スタンダードを発信→ジャパネクオリティの模索
- ・アパレル・リサイクルの法制化への働きと問題点

(オ) 私達にもできること

- ・エコグッズ3種の神器
（マイ箸・ポスター裏使いの名刺・エコネクタイ）



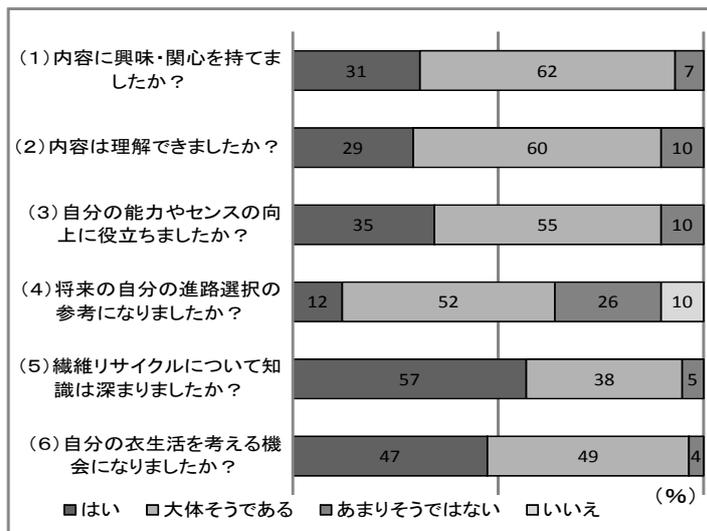
木田先生のご講義の様子



リサイクル綿、チップ、フレーク、エコグッズ

(5) 検証（成果と反省）

ア 事後のアンケート結果から



講演に参加した生徒の90%以上が講演の内容に興味・関心を持ち、繊維リサイクルについて知識が深まったと回答した。しかし、説明の中で専門用語が多いことと、スクリーンの文字が小さかったため理解しにくいという意見もあり、興味・関心・内容理解があまり持てなかった生徒もいた。

イ 生徒の感想から

- ・まず、自分のリサイクルについて深く考えたいと思った。“きっと誰かがやってくれるだろう”この気持ちばかりだったと思います。自分から！自分で！きちんと地球のことを考えるのが必要と感じた。
- ・衣類のリサイクルが遅れていることを初めて知った。私も衣類を大切に扱い、ゴミを減らせるよう少しでも協力したいと思った。
- ・衣服のリサイクルについては元々興味があったので、今回のSSHはとても嬉しかった。自分はあまり服を捨てることはなく、いつも人にゆずっていたので、こんなにも捨てられているのには驚いた。将来ファッションに携わりたいからこそ、もっと気にしていこうと思った。

ウ 検証

アンケート結果や生徒の感想から分かったことは、アパレル・リサイクルの現状を知り、環境問題に対して興味・関心を持たせることができた。また、自分たちに何ができるかを考え、衣生活を見直す機会は得られたと考えられる。